

## ■現況と動向

### (1)人口特性

#### ①人口・世帯数

- ・本市の人口は、平成 22 年時点で 54,614 人となっており、減少に転じています。最近 5 年間の増加率はマイナス 1.3%となっており、近隣都市と比較すると本市および甲賀市のみが減少傾向に入っています。
- ・世帯数は、平成 22 年時点で 20,463 世帯となっており、増加傾向にあります。
- ・世帯人員は一貫して減少しており、平成 22 年時点で 2.67 人/世帯となっています。

表 人口の推移

	平成 2 年		平成 7 年		平成 12 年		平成 17 年		平成 22 年	
	人口	増加率	人口	増加率	人口	増加率	人口	増加率	人口	増加率
大津市	277,290	10.8	295,574	6.6	309,793	4.8	323,721	4.5	337,634	4.3
草津市	94,767	8.3	101,828	7.5	115,455	13.4	121,159	4.9	130,874	8.0
守山市	58,561	10.4	61,859	5.6	65,542	6.0	70,823	8.1	76,560	8.1
栗東市	45,049	7.7	48,759	8.2	54,856	12.5	59,869	9.1	63,655	6.3
野洲市	43,671	2.8	45,865	5.0	48,326	5.4	49,486	2.4	49,955	0.9
甲賀市	82,668	4.5	90,744	9.8	92,484	1.9	93,853	1.5	92,704	-1.2
<b>湖南市</b>	<b>46,093</b>	<b>17.5</b>	<b>51,372</b>	<b>11.5</b>	<b>53,740</b>	<b>4.6</b>	<b>55,325</b>	<b>2.9</b>	<b>54,614</b>	<b>-1.3</b>
県全体	1,222,411	5.8	1,287,005	5.3	1,342,832	4.3	1,380,361	2.8	1,410,777	2.2

資料) 国勢調査

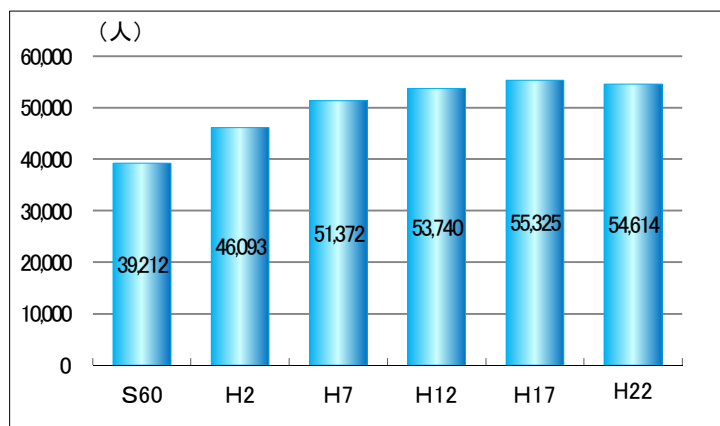


図 人口の推移 資料) 国勢調査

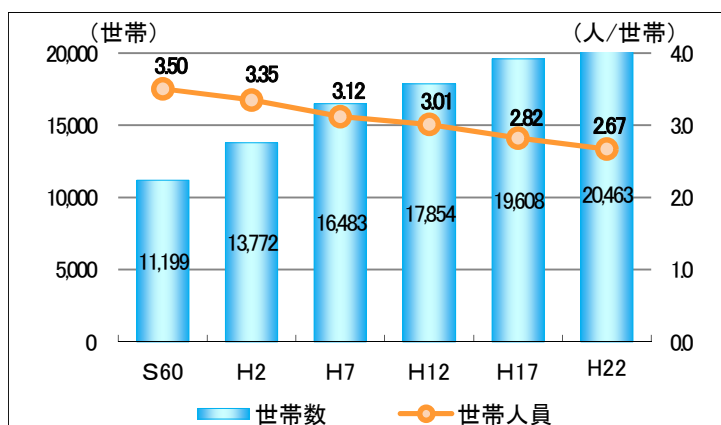


図 世帯数、世帯人員の推移 資料) 国勢調査

- ・国立社会保障人口問題研究所による推計では、湖南省市の人口は今後減少傾向が続き、2040年には、ピークであった2005年（55,325人）から18%減少する見込みとなっています。

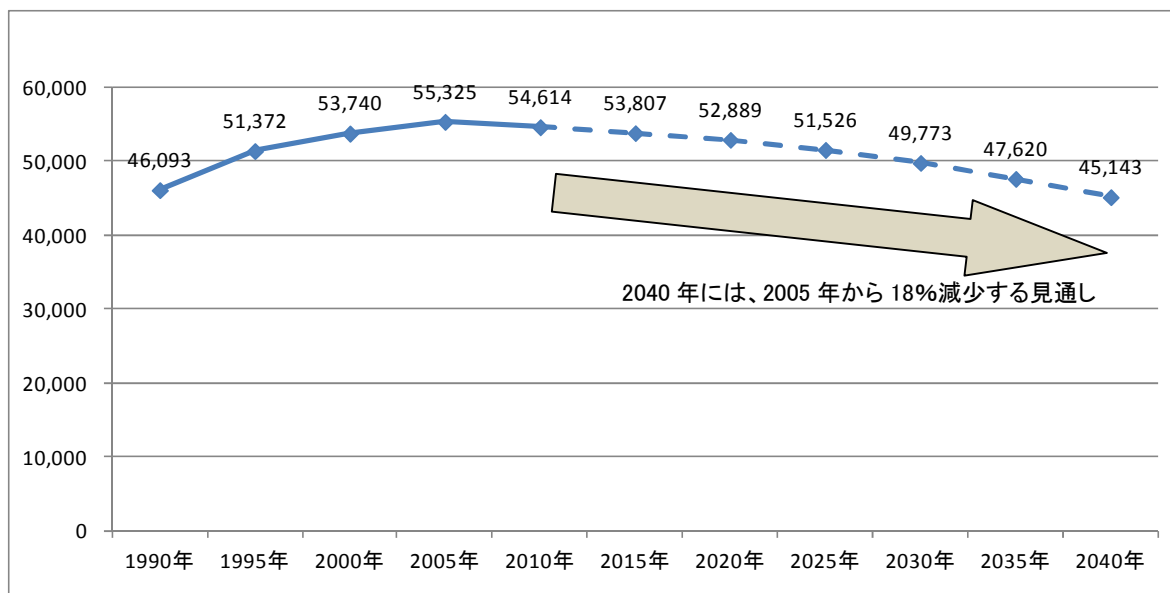


図 将来人口推計結果 (資料) 国立社会保障人口問題研究所

- ・湖南省市の普通出生率は、平成14年以降小さくなっており、平成24年時点では9.01となっています。周辺都市との比較では野洲市、大津市に次いで小さく、県全体よりも小さくなっています。
- ・平成20～24年の合計特殊出生率は1.49となっており、県全体を若干上回っています。

表 出生数・出生率の推移

	平成9年		平成14年		平成19年		平成24年		平成20～24年
	出生数	出生率	出生数	出生率	出生数	出生率	出生数	出生率	合計特殊出生率
大津市	3,058	10.22	3,106	9.90	3,001	9.14	2,949	8.77	1.33
草津市	1,148	11.29	1,234	11.11	1,171	9.50	1,327	10.82	1.32
守山市	720	11.48	810	12.06	936	12.66	924	11.84	1.52
栗東市	701	14.24	927	16.55	984	15.84	892	13.73	1.86
野洲市	907	9.97	868	9.41	769	8.18	763	8.33	1.48
甲賀市	510	10.98	526	10.87	505	10.12	523	10.38	1.42
湖南省市	597	11.68	638	12.48	512	9.27	475	9.01	1.49
県全体	13,708	10.59	13,938	10.39	13,343	9.57	13,236	9.49	1.45

資料) 出生数：人口動態調査

合計特殊出生率：平成20年～平成24年人口動態保健所・市区町村別統計(人口動態統計特殊報告)

## ②年齢3区分別人口の推移

- ・平成22年の年齢3区分別人口の構成比をみると、年少人口（0～14歳）の割合は14.8%、生産年齢人口（15～64歳）の割合は68.5%であり、これらは年々減少する傾向にあります。一方、老年人口（65歳以上）の割合は16.6%と増加傾向です。
- ・滋賀県全体の年少人口割合は15.1%、生産年齢人口割合は64.2%、老年人口割合は20.7%であり、本市は県内では高齢化率が比較的低い地域となっています。一方、年少人口割合は県全体より0.3ポイント低く、少子化が進んでいます。

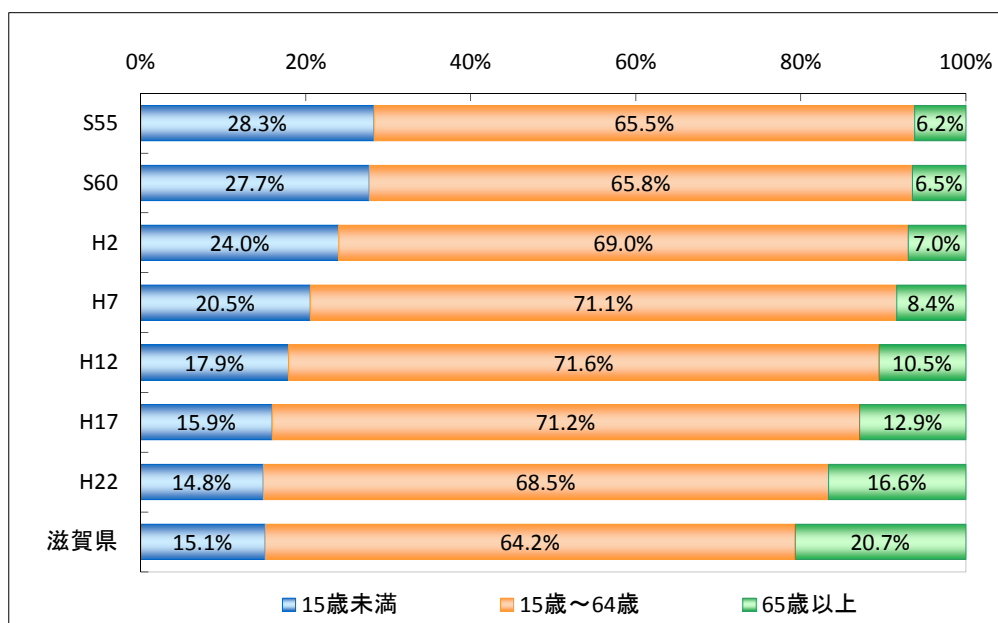


図 年齢3区分別人口割合の推移 資料) 国勢調査

## ③自然増減の推移

- ・本市人口の自然増減の推移をみると、出生児数が死亡者数を上回っていますが、自然増の数は減少傾向にあり、平成25年には120人の増加となっています。

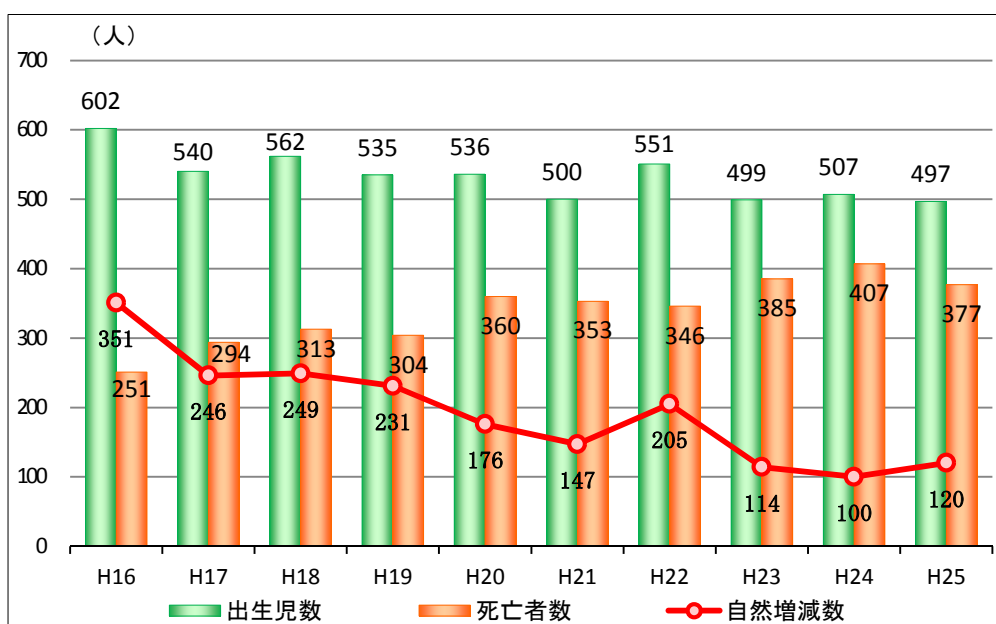


図 人口の自然増減数の推移 資料) 湖南市統計資料

#### ④社会増減の推移

- ・本市人口の社会増減の推移をみると、転出者数が転入者数を大きく上回る状態が続いていましたが、近年は減少数が小さくなり、平成 25 年は 156 人となっています。

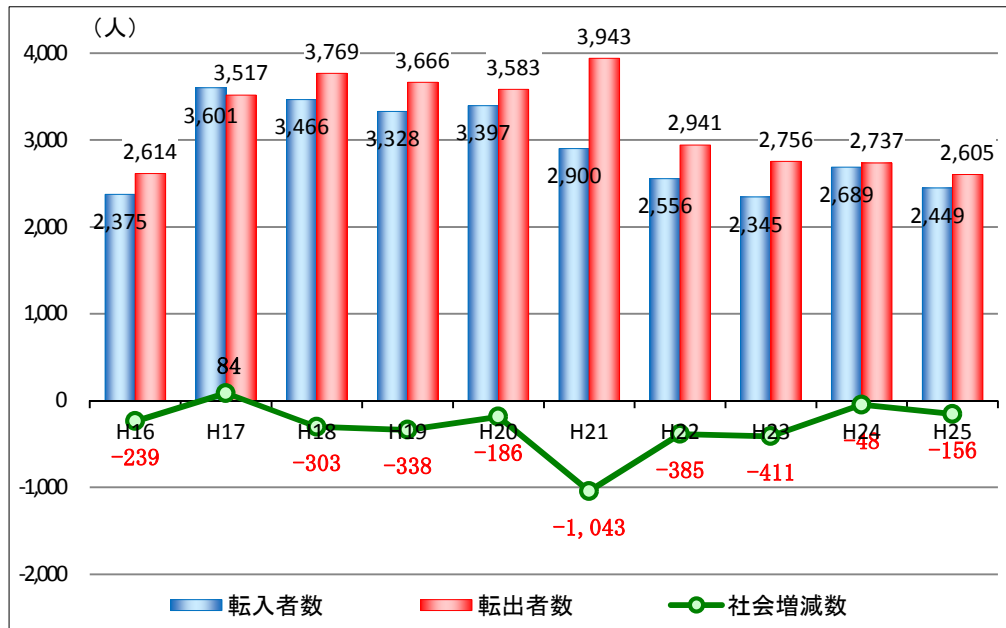


図 人口の社会増減数の推移 資料) 湖南市統計資料

#### ⑤昼夜間人口比率

- ・平成 22 年時点で、本市の夜間人口が昼間人口を 2,885 人上回っており、流出超過の状態にあります。
- ・昼夜間人口比は、平成 24 年時点で 0.947 となっています。流入人口が減少傾向にあるため、平成 12 年以降、昼夜間人口比は減少傾向にあります。

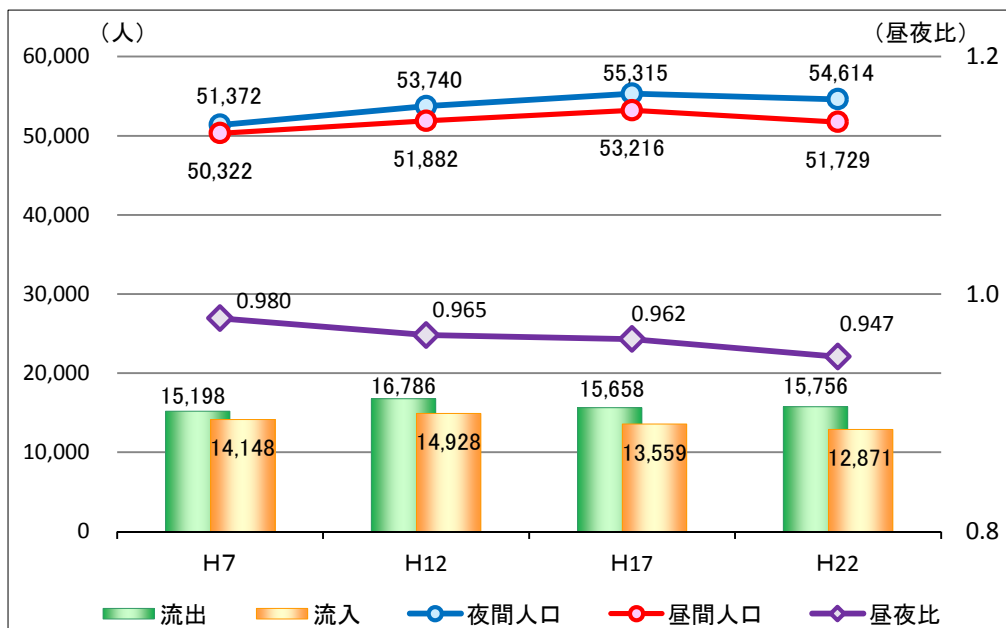


図 昼夜間人口等の推移 資料) 国勢調査

## ⑥流出人口

- ・流出状況は、平成 22 年時点で 16,113 人（従業地・通学地「不詳」を含む）となり、平成 17 年より 559 人の増加となっています。流出先としては、隣接する甲賀市が第 1 位、栗東市が第 2 位、第 3 位が草津市となっています。
- ・流入状況は、平成 22 年時点で 12,818 人となり、平成 17 年より 689 人の減少となっています。流入元の第 1 位、2 位、3 位は流出先と同様となっています。

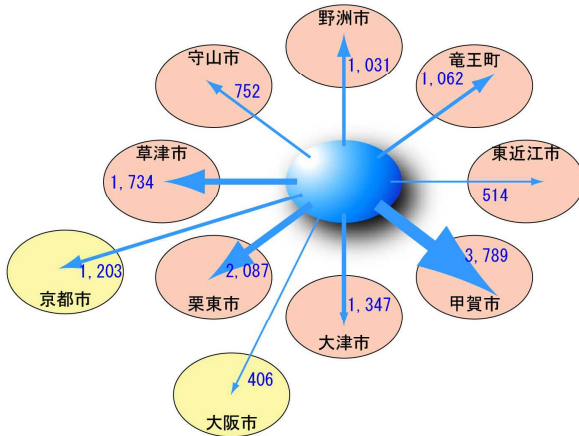
表 流出入先上位 10 位

	流出先	流出数		流入元	流入数
第 1 位	甲賀市	3,766	第 1 位	甲賀市	4,581
第 2 位	栗東市	1,937	第 2 位	栗東市	1,277
第 3 位	草津市	1,816	第 3 位	草津市	1,107
第 4 位	大津市	1,316	第 4 位	東近江市	987
第 5 位	竜王町	1,296	第 5 位	大津市	833
第 6 位	京都市	1,149	第 6 位	守山市	828
第 7 位	野洲市	1,134	第 7 位	野洲市	700
第 8 位	守山市	823	第 8 位	近江八幡市	698
第 9 位	東近江市	492	第 9 位	日野町	510
第 10 位	近江八幡市	405	第 10 位	竜王町	389
県内計		13,477	県内計		12,100
県外計		2,153	県外計		718

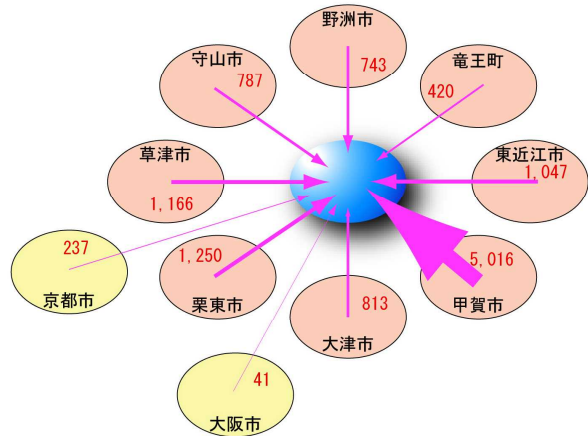
資料) 国勢調査 (H22)

平成 17 年

【湖南市からの流出】

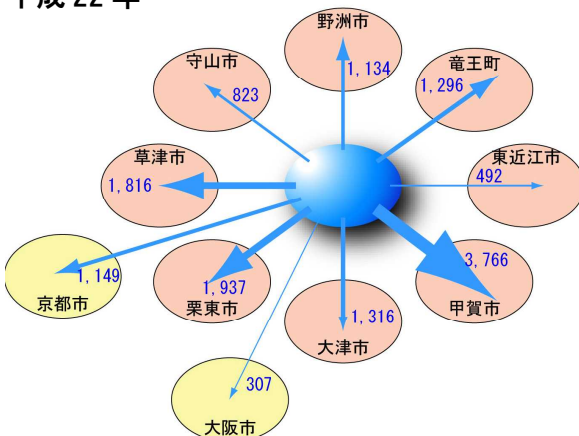


【湖南市への流入】

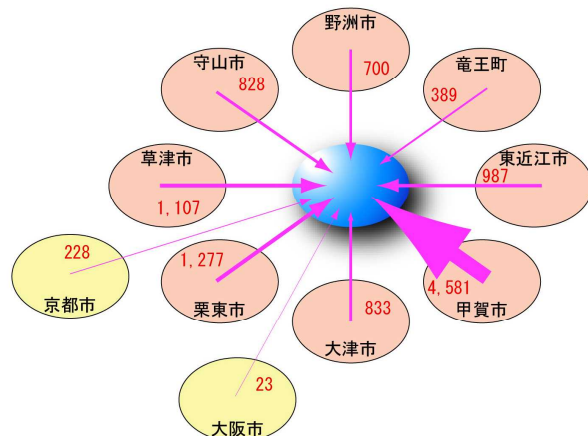


平成 22 年

【湖南市からの流出】



【湖南市への流入】



## ⑥産業別就業人口

- ・平成 22 年時点で、本市では 27,859 人（分類不能の産業を含む。）が就業しており、第 1 次産業が 1.2%、第 2 次産業が 42.8%、第 3 次産業が 51.0%を占めています。平成 2 年時と比べると、第 1 次産業および第 2 次産業の割合が減少する一方、第 3 次産業の割合が増加しています。
- ・滋賀県全体の状況と比べると、第 2 次産業の就業人口割合は比較的高い地域となっています。

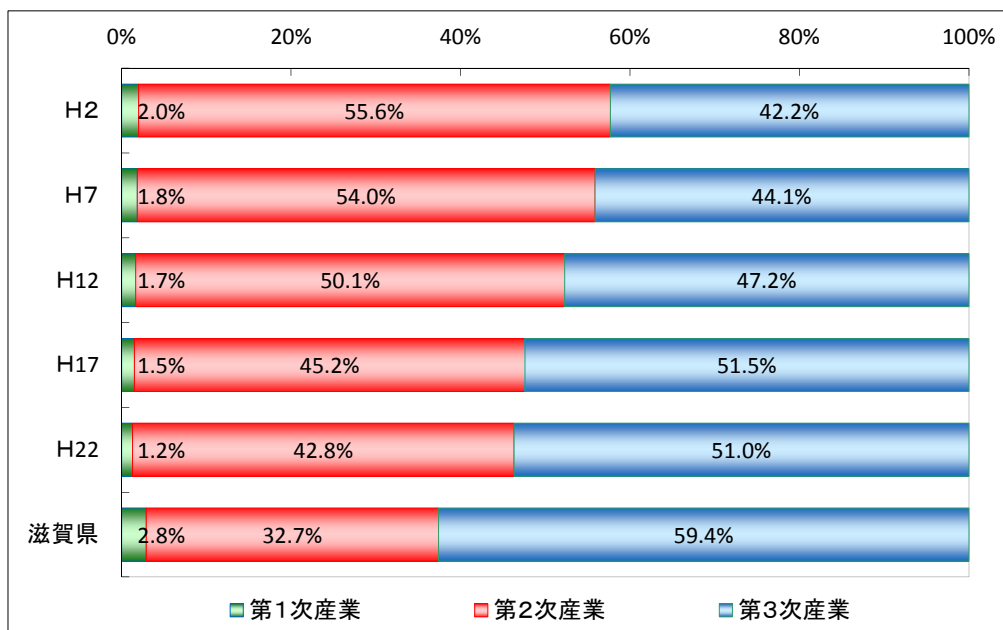


図 産業別就業人口割合の推移 資料) 国勢調査

## (2)産業特性

### ①農業

#### i) 農家数

- ・総農家数は平成 22 年時点で 579 戸となり、20 年前の半数となっています。
- ・総農家数・販売農家は減少傾向が続いている一方で、自給的農家（経営耕地面積が 30a 未満かつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家）が全体の 3 分の 1 以上を占めるまで増加しています。
- ・農家一戸当たり経営耕作面積は 60～70a で推移しています。

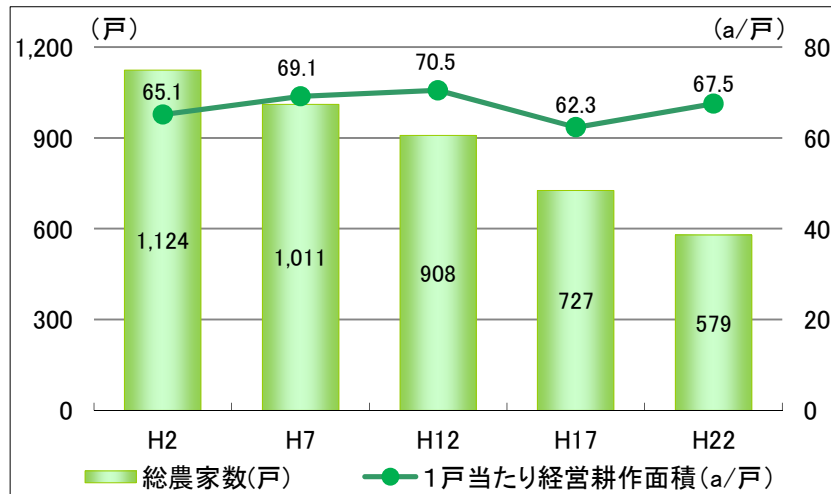


図 総農家数と農家 1 戸当たり経営耕作面積の推移 資料) 農林業センサス

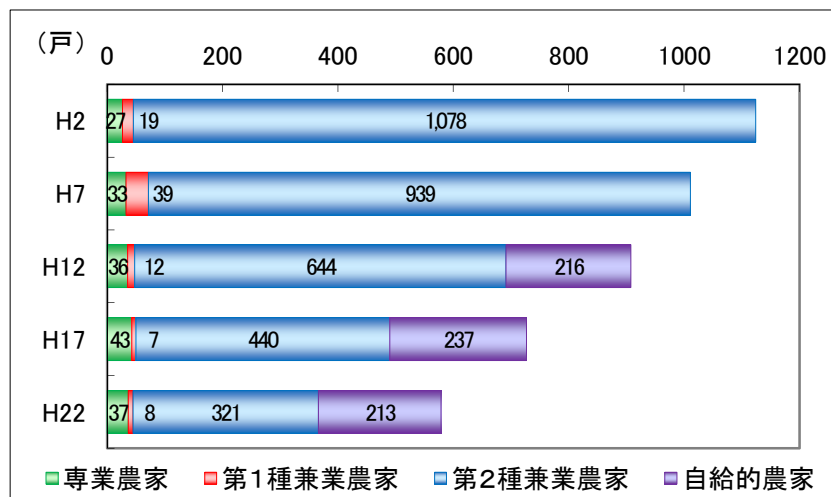


図 専業、兼業、自給的農家数の推移 資料) 農林業センサス  
※H12 より総農家数＝販売農家数＋自給的農家数に変更

#### ii) 農業産出額

- ・農業産出額は、「米」が全体の約 6 割を占める主要な農作物となっており、次いで「野菜」となっています。

表 作物別農業産出額 (単位：千万円)

年度	米	麦	豆類・いも類	野菜	花き	その他	合計
H16	56	2	3	8	2	20	91
H18	50 (58.8%)	2 (2.4%)	3 (3.5%)	9 (10.6%)	2 (2.4%)	19 (22.4%)	85 (100.0%)

資料) 生産農業所得統計

## ②工業

### i) 事業所数、従業者数、製造品出荷額等

- ・平成 24 年時点で事業所数が 189 事業所、従業者数が 10,468 人となっています。
- ・事業所数は平成 20 年に増加に転じたものの、その後減少傾向にあります。
- ・従業者数は平成 18 年に増加したものの、その後減少傾向にあります。
- ・製造品出荷額等は、平成 22 年時点で平成 14 年以降続いていた増加傾向から減少に転じ、平成 12 年とほぼ同程度の 4,423 億円となっています。

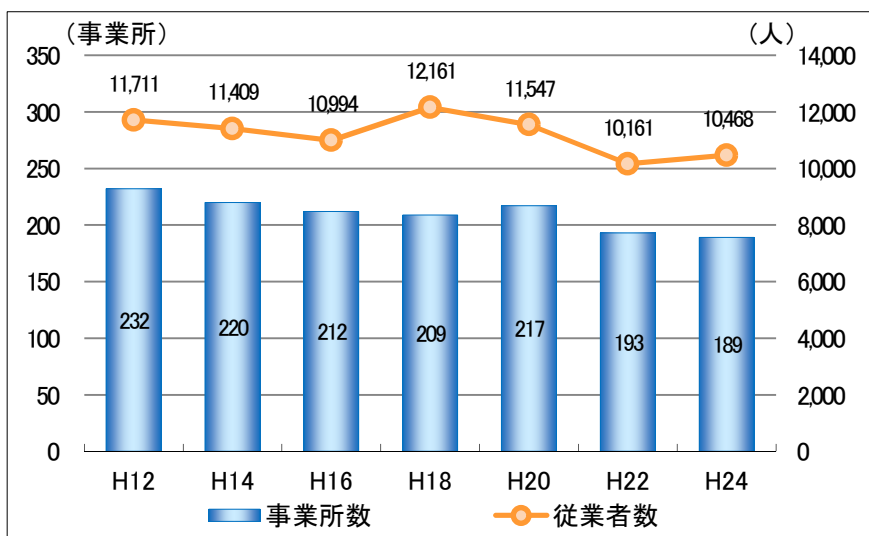


図 製造業の事業所数、従業者数の推移 資料) 工業統計調査  
※平成 15 年以降は従業者 4 人以上の事業所のみが対象

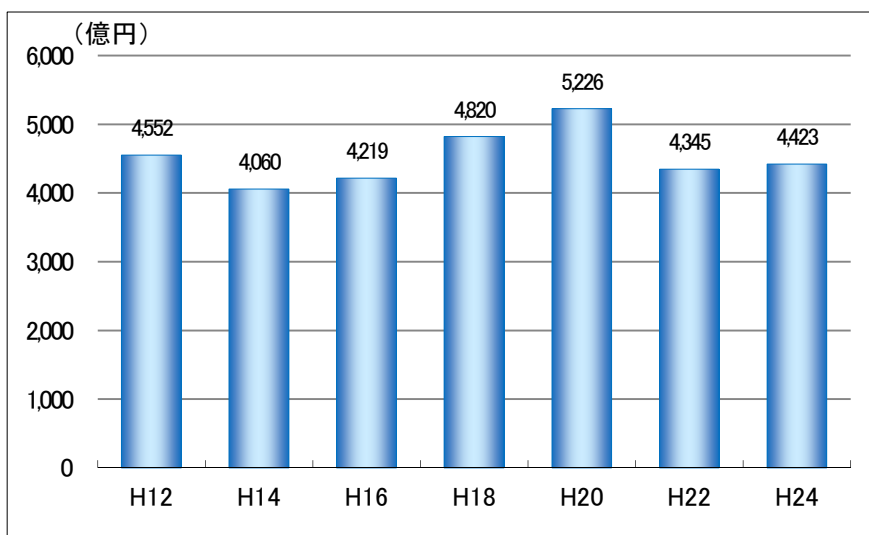


図 製造業の製造品出荷額等の推移 資料) 工業統計調査  
※平成 15 年以降は従業者 4 人以上の事業所のみが対象



## ii) 産業分類別のシェア

- ・産業分類別の製造品出荷額等について、平成 24 年時点で「はん用機械」が 14.1%で最も多く、次いで「プラスチック」(13.6%)、「輸送機械」(13.4%)となっています。
- ・平成 20 年から平成 24 年にかけて、「はん用機械」が大きく増加しています。

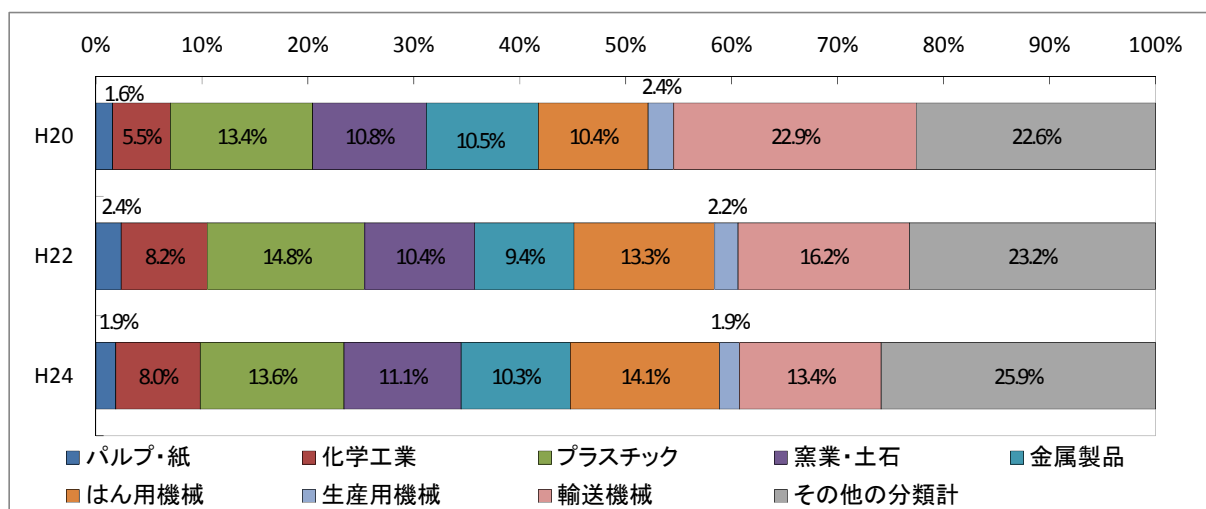


図 分類別製造品出荷額等の推移 (資料) 工業統計調査  
 ※平成 20 年より調査用産業・品目分類が改訂されている

### ③商業

- ・事業所数は、平成 21 年に増加に転じたものの、平成 24 年には 321 まで大きく減少しています。
- ・従業者数も平成 21 年に増加に転じたものの、平成 24 年には 2,430 人まで大きく減少しています。
- ・年間販売額は平成 16 年から減少傾向が続いており、平成 24 年時点で 541.9 億円となっています。

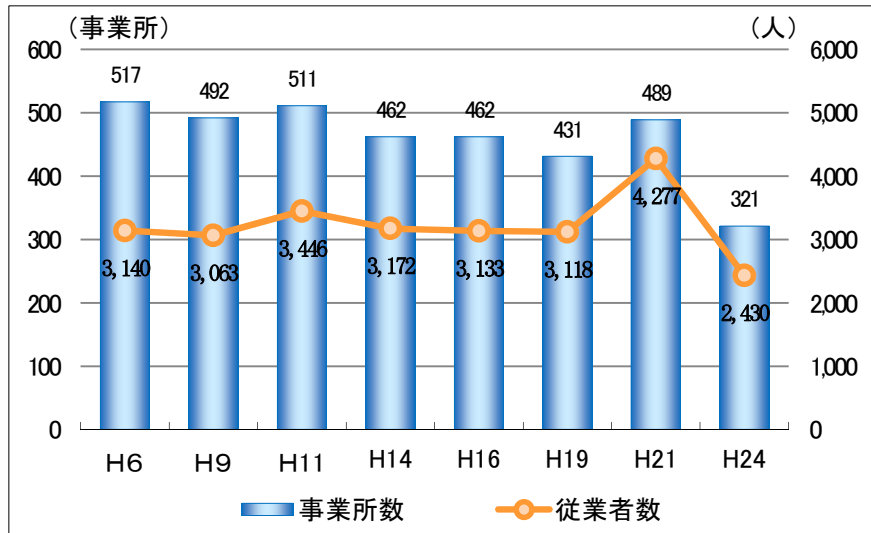


図 卸売業・小売業の事業所数、従業者数の推移

資料) 商業統計調査、H21 年経済センサス基礎調査、H24 年経済センサス活動調査

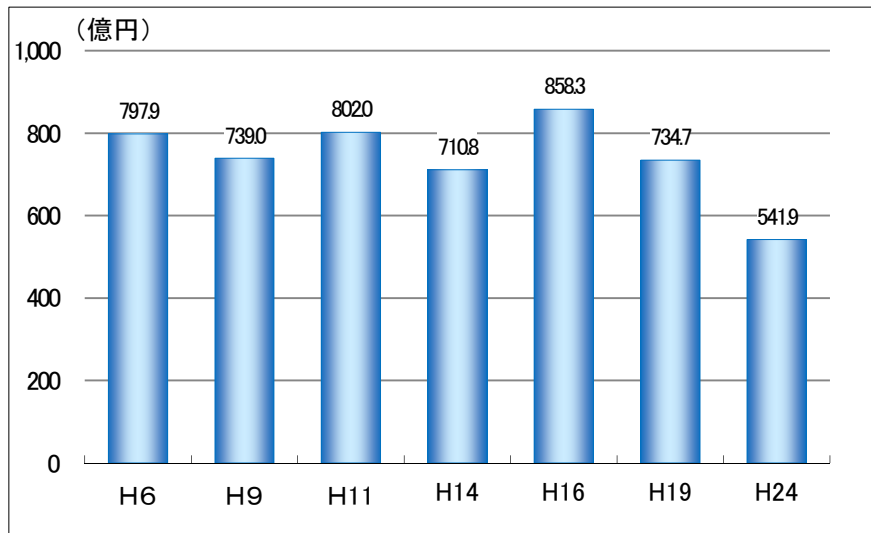


図 卸売業・小売業の年間販売額の推移

資料) 商業統計調査、H24 年経済センサス活動調査

### ⑤観光

- ・観光客入込数は平成24年時点で35.11万人となっており、平成15年からみると減少傾向にあります。また、全て日帰り客である年が多く、外国人観光客がいない状態が続いています。

表 観光入込客数の推移（単位：人）

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
日帰り	386,600	373,300	383,200	377,300	361,300	351,500	371,800	348,500	346,600	351,100
宿泊	700	800	900	0	0	300	0	0	0	0
合計	387,300	374,100	384,100	377,300	361,300	351,800	371,800	348,500	346,600	351,100

資料) 滋賀県観光入込客統計調査

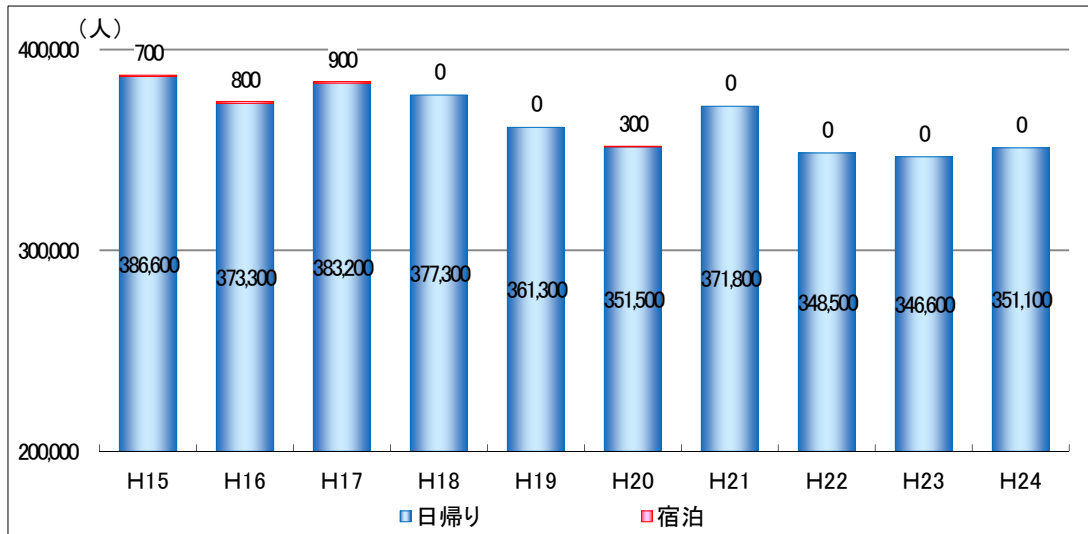


図 観光入込客数の推移

### ⑥公共交通

- ・市内のJR3駅のうち、三雲駅は一日平均旅客乗車人員が増加傾向にあるものの、甲西駅は減少傾向にあります。

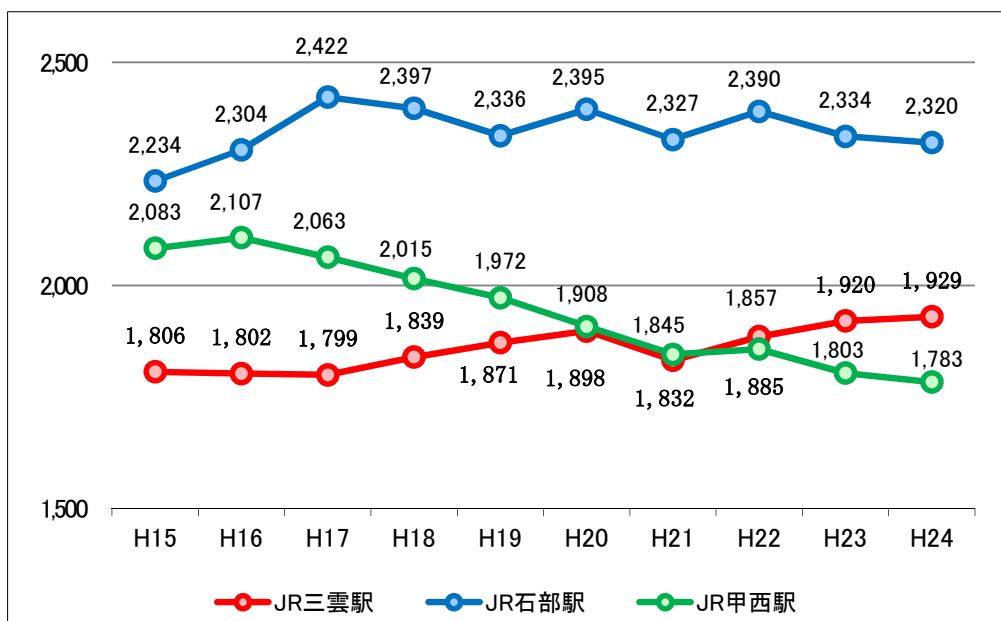


図 一日平均旅客乗車人員の推移